

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 5 月 20 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20320118

研究課題名（和文） ヨーロッパ史の中の軍隊—新しい軍事史の方法と課題—

研究課題名（英文） Armies in European History, Problems and Methods for New Military History

研究代表者

佐々木 真 (SASAKI MAKOTO)

駒澤大学・文学部・准教授

研究者番号：70265966

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、軍事史を現代の歴史学の潮流の中に位置づけることであり、軍隊に関する史料に着目して、軍隊と社会の関係を考察した。ドイツ人研究者 4 名と日本史やアジア史の研究者 4 名により組織され、2010 年 3 月に開催された国際シンポジウムにより、新しい軍事史研究の可能性を国内の研究者にアピールするとともに、日独の軍事史研究者が双方の研究状況について相互理解を深めた。本研究により、より広い歴史的な文脈で軍事を考察することの重要性を指摘することができた。

研究成果の概要（英文）：

The primary objective of this project was to locate the military history in the current historical research. To examine the relation between Military and Society, the project focused on the historical materials for military history. The project held International Symposium entitled “Problems and Materials for ‘New Military History’- Europe, Asia and Japan-” on March 2010. With four speakers invited from Germany, we discussed recent trends of military history of Germany, China and Japan, as well as historical materials for military history. This symposium encouraged international cooperation in these fields and stimulated historians in Japan. We believe we have shown the importance of rescuing the military from its entrenched military history and considering it in wider historical contexts, in addition to opening up the possibility to create a new field of history.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2008 年度	5,700,000	1,710,000	7,410,000
2009 年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2010 年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
年度			
年度			
総 計	14,800,000	4,440,000	19,240,000

研究分野：フランス近世史

科研費の分科・細目：人文学・史学・西洋史

キーワード：西洋史、軍隊、戦争、史料論

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来の研究との関係

本研究の代表者と分担者のほとんどは、日本で初めてのヨーロッパ史における軍隊に

ついで共同研究である科学研究費補助金（基盤研究(B)）「ヨーロッパ史における軍隊と社会」（平成 15～17 年度、研究代表者阪口修平、課題番号 15320104）のメンバーであり、

そこで得られた知見をさらに発展させるために、本研究を組織した。

(2) 内外の研究状況との関連

日本の西洋史における軍隊や軍事史に関する研究は、端緒についたばかりであり、というのが現状であり、研究の意義や可能性を広く認知させるために、本研究課題によってより質の高い研究事例を提供するとともに、今日の歴史学の水準に合致した、軍事史に関する見通しを示す必要があった。

2. 研究の目的

(1) 各専門分野の研究の推進

16世紀から19世紀のヨーロッパ地域を主たる対象とし、海外調査等をふまえ、史料に基づいた実証レベルの高い研究を行う。

(2) 軍事史に関する史料論の検討

軍隊に関する文書の状況を調査し、軍事史関係の史料についての検討を実施する。これに関しては、以下の2点の研究視角のもとで具体的作業を行う。

① 各国において、軍事文書館に限定せず、ひろく軍事史関連の資料が所蔵されている文書館を調査する。これにより、史料論から軍隊と社会との関係に光を当て、軍隊に関連する史料から何が見えるのかを検討する。

② 軍事史に関する同種の史料のあり方を地域・時代別に比較し、その地域の社会や国家の特性を考える。これより、軍事史史料という側面から当時の国家や社会のあり方を照射する。

3. 研究の方法

(1) 個別研究の推進

各個人ごとに与えられたテーマの研究を推進する。各人は研究会において順次発表をし、他の地域や異なる時代との比較史的考察を行なって、研究を深化させる。

(2) 文書館史料の調査

研究目的の史料論については、個別研究の実施にあたって利用する文書館や、過去に利用した文書館の状況を整理して、まとめる。

(3) 研究会の開催

現在定期的に実施している「『軍隊と社会の歴史』研究会」において、上記2点の成果を発表し検討する。また、合宿形式の研究会も行い、日本史や東洋史など異なる地域のゲスト・スピーカーを呼び意見をj得る機会も設定する。

(4) 外国人研究者との意見交換、シンポジウムの開催

各人の研究視角を深化させるために、外国人研究者とともに研究会を実施する。また史料論に関しては、軍事史史料に精通した外国人研究者を招き、日本史などの研究者を交えて「軍事史料の可能性」をテーマとしたシンポ

ジウムを開催する。

(5) 軍事史に関する研究成果の紹介

研究入門の刊行とも関連させ、海外で定評のある軍事史に関する研究文献を翻訳し、出版する。

4. 研究成果

(1) 個別研究の推進と文書館資料の収集に関しては、代表者と分担者8名全員がヨーロッパの文書館で文献の収集と資料状況の調査を実施した(のべ12回)。

(2) 3年間で6回の研究会を開催し、2009年2月と2010年12月には1泊2日で合宿形式で実施した。2009年2月には日本史と清朝史の研究者と翌年のシンポジウムに向けた研究のすりあわせを行い、2009年12月には日本史とドイツ史の発表により、戦没者慰霊についての研究会を催した。アジア史や日本史の研究者と本格的に連携を開始し、新しい軍事史の領域を拡大することができたのは、この3年間の大きな成果であった。

(3) 海外の研究者との交流に関しては、ラルフ・プレーヴェ氏(ポツダム大学教授)とユルゲン・クロースターフス氏(プロイセン枢密古文書館館長)、ポツダム大学大学院生2名を招き、2010年3月21日と22日に「新しい軍事史」の課題と方法—ヨーロッパ・アジア・日本—という国際シンポジウムを実施した。アジア史と日本史の報告・コメントも加え、日独の研究者で現在の軍事史研究の課題を共有することができ、多くの有益な情報を交換することができた。

(4) 海外の研究成果の紹介については、2010年4月に、阪口、丸島、鈴木¹⁾の翻訳により、ラルフ・プレーヴェ『19世紀ドイツの軍隊・国家・社会』(創元社)を出版した。

(5) 研究成果の発表については、上記翻訳書のほか、個別研究については論文集の出版を、史料論については、2010年3月のシンポジウムの報告とその補完の原稿を加え、『近世近代軍事史研究入門』の出版を計画している。

(6) 3年間の研究により、軍事史の共同研究の領域を日本史やアジア史までに拡大するとともに、日本の研究を海外に発信する準備が完了した。今後は、その方向で、さらに研究を継続していく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計20件)

① 古谷大輔、カルマル連合解体期のスカンディナヴィア世界における近世王国像について、IDUN 北欧研究、査読有、19号、2011、pp. 221—234

② Jiro Rei Yashiki、Tagungsbericht:

- Aufgaben und Materialien der "Neuen Militargeschichte" - Europa, Asien und Japan-, Hitotsubashi Journal of Law and Politics, 査読無、39、2011、pp.1-2
- ③ Kobo SEIGAN、L'union entre Dieu et la patrie. L'histoire de l'aumônerie militaire catholique (1870-1913)、Revue d'Histoire de l'Eglise de France、査読有、Tome 96、2010、pp.467-488
- ④ 西願広望、フランス王政復古期における従軍司祭—反革命による改革と革命の痕跡、青山学院女子短期大学総合文化研究所年報、査読無、18巻、2010、pp.3-18
- ⑤ 丸島宏太、1800年前後のドイツにおける連続と断絶—民衆の視点から、スペイン史学会会報、査読有、第91号、2010、pp.12-13
- ⑥ 鈴木直志、ベローナが解き放たれる時—啓蒙期ヨーロッパの戦争論と平和論、史林、査読有、第93巻第1号、2010、pp.71-97
- ⑦ 屋敷二郎、Zwischen dem Katheder und der Rechtspraxis. Arthur Nussbaum (1877-1964) und seine Rechtstatsachenforschung、Hitotsubashi Journal of Law & Politics、査読無、vol.38、2010、pp.13-30
- ⑧ 屋敷二郎、『16-18世紀法学文献コレクション』の現状と展望—夢路よりかえりて、一橋大学社会科学古典資料センター年報、査読無、第30号、2010、pp.1-17
- ⑨ 西願広望、戦時下のフランス革命—銃と自由、歴史評論、査読無、718号、2010、pp.36-49
- ⑩ 西願広望、フランス革命と映画、歴史評論、査読無、718号、2010、pp.71-74
- ⑪ 古谷大輔、近世スウェーデンにおける軍事革命—初期ヴァーサ朝期からグスタヴ2世アードルフ期におけるスウェーデン軍制の展開—、大阪大学世界言語研究センター論集、査読有、3号、2010、pp.1-28
- ⑫ 佐々木真、近年のフランス絶対王政研究、歴史と地理 世界史の研究、査読無、220号、2009、pp.42-46
- ⑬ 古谷大輔、スウェーデンにおける民族概念の歴史的展開—民族理解と自然認識、EX ORIENTE、査読無、16号、2009、pp.67-88
- ⑭ 佐々木真、ゴブラン製作所と『ルイ14世記』—タピスリーにみる王権の表象—、駒澤大学文学部研究紀要、査読無、第67号、2009、pp.21-49
- ⑮ 丸島宏太、書評、大津留厚『青野原俘虜収容所の世界—第一次世界大戦とオーストリア捕虜兵』(山川出版社、2007年)、

歴史学研究、査読無、第849号、2009、pp.48-51

- ⑯ 鈴木直志、世界史Q & A 啓蒙絶対主義(啓蒙専制主義)について教えてください、歴史と地理 世界史の研究、査読無、第217号、2008、pp.42-44
- ⑰ 鈴木直志、近世ヨーロッパにおける戦争と平和(ヨハネス・ブルクハルト著)、桐蔭法学、査読無、第15巻第2号、2009、pp.1-22
- ⑱ 屋敷二郎、ヨーロッパの共通法(ユス・コムネ)経験と東アジア、法學論叢(全南大学校法律行政研究所)、査読無、第28輯第1号別冊、2008、pp.617-637
- ⑲ Jiro Yashiki、Die Modernisierung der Staatsidee von der Meiji-Restauration (1867) bis zur japanischen Reichsverfassung (1889) unter besonderer Berücksichtigung der Beziehungen zu Österreich-Ungarn und dem übrigen Europa、Der österreichisch-ungarische Ausgleich 1867 (Rechtsgeschichtliche Vorträge 52)、査読無、52、2008、pp.58-64
- ⑳ D. Furuya、Between Sweden and Denmark: Political Dynamics in Baltic World and Cultural Construction in Nordic Countries、Y. Takashina (ed.), Dynamics of Language - "Foreign Languages" as Named by Others、査読有、2008、pp.93-96

〔学会発表〕(計13件)

- ① 鈴木直志、リュヒェルとシャルンホルスト、クラウゼヴィッツ学会大会、2010年10月16日、東京電機大学
- ② 鈴木直志、ドイツにおける「啓蒙」と「専制」—啓蒙絶対主義の歴史的位罫について、ロシア史研究会大会、2010年10月17日、立教大学
- ③ Makoto SASAKI、War and Peace in Almanacs during the Nine Years War、Dimensionen des Friedens im frühneuzeitlichen Europa、2009年11月11日、Institut für Europäische Kulturgeschichte der Universität Augsburg(ドイツ)
- ④ Daisuke FURUYA、Transformation of Axis for Integration. On Historical Change of Discourse on Legitimacy of Swedish Empire、Dimensionen des Friedens im frühneuzeitlichen Europa、2009年11月10日、Institut für Europäische Kulturgeschichte der Universität Augsburg(ドイツ)
- ⑤ 鈴木直志、ベローナが解き放たれる時—近代転換期ヨーロッパの戦争論、2009年度史学研究会例会、2009年4月18日、京

都大学文学部

- ⑥ 浅野明、16-17 世紀モスクワ国家の社会と軍事—文献と史料、「軍隊と社会の歴史」研究会、2009 年 4 月 11 日、駒澤大学
- ⑦ 古谷大輔、戦争・国家・民族？ヨーロッパの地平から？、国立民族学博物館友の会午餐会、2010 年 3 月 3 日、ホテル阪急インターナショナル
- ⑧ 佐々木真、戦争と 17 世紀のフランス—正戦と王国の記憶—、日本西洋史学会第 58 回大会（小シンポジウム「近世ヨーロッパにおける戦争と国家—『軍事革命』論の彼方へ—」）、2008 年 5 月 11 日、島根大学
- ⑨ 古谷大輔、近世バルト海世界とスウェーデン『軍事革命』、日本西洋史学会第 58 回大会（小シンポジウム「近世ヨーロッパにおける戦争と国家—『軍事革命』論の彼方へ—」）、2008 年 5 月 11 日、島根大学
- ⑩ 丸島宏太、ラルフ・プレーヴェと 19 世紀ドイツ軍事史、「軍隊と社会の歴史」研究会、プレ・シンポジウム、2009 年 2 月 22 日、佛教大学
- ⑪ 阪口修平、ドイツにおける軍事史研究の動向、「軍隊と社会の歴史」研究会、プレ・シンポジウム、2009 年 2 月 22 日、佛教大学
- ⑫ D.Furuya、A Historiography in Modern Japan: the laborious quest for identity in East Asian World、International Workshop “Japan and Serbia in a Foreseeable Future”、2008 年 9 月 23 日、Institute of International Politics and Economics, Serbia.
- ⑬ 古谷大輔、スウェーデン・アイデンティティの歴史的座標、民族紛争の背景に関する地政学的研究第二回国際シンポジウム「コトバの活断層—民族認識の座標軸」、2009 年 2 月 23 日、千里中央ライフサイエンスセンター

〔図書〕（計 10 件）

- ①□ 阪口修平、佐々木真、鈴木直志、西願広望、丸島宏太、屋敷二郎、正本忍、宮崎揚弘、竹村厚士、創元社、歴史と軍隊—軍事史の新しい地平—、2010、332 ページ
- ② ラルフ・プレーヴェ(阪口修平、丸島宏太、鈴木直志訳)、創元社、19 世紀ドイツの軍隊・国家・社会、2010、243 ページ
- ③ 浅野明監修 クリステル・ヨルゲンセン他著/竹内喜・徳永優子訳、創元社、戦闘技術の歴史 3 近世編、2010、372 ページ
- ④ 阪口修平、丸島宏太、佐々木真、鈴木直志、西願広望、斉藤恵太、土肥恒之、竹村厚士、中島博貴、横井勝彦、田中正人、

ミネルヴァ書房、近代ヨーロッパの探求 12 軍隊、2009、389 ページ

- ⑤ 屋敷二郎(共編者)、慈学社、法の流通(法制史学会 60 周年記念若手論文集)、2009、922 ページ
- ⑥ 浅野明監修 マシユー・ベネット他著/野下祥子訳、創元社、戦闘技術の歴史 2 中世編 AD500—AD1500、2009、355 ページ
- ⑦ 丸島宏太、彩流社、クラウドヴィッツと「戦争論」(清水多吉・石津朋之編)、2008、pp.147—167
- ⑧ 鈴木直志、彩流社、クラウドヴィッツと「戦争論」(清水多吉・石津朋之編)、2008、pp.169-192
- ⑨ ヴォルフ・D・グルーナー著 丸島宏太他訳、ミネルヴァ書房、ヨーロッパのなかのドイツ—1800～2002、2008、388 ページ
- ⑩ 古谷大輔、山川出版社、歴史的ヨーロッパの政治社会(近藤和彦編)、2008、pp.169-192

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.komazawa-u.ac.jp/gakubu/bun/history/skaken.html>

駒澤大学図書館駒大電子紀要検索

<http://www.lib.komazawa-u.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 真 (SASAKI MAKOTO)

駒澤大学・文学部・准教授

研究者番号：70265966

(2) 研究分担者

阪口 修平 (SAKAGUCHI SYUHEI)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：50096111

浅野 明 (ASANO AKIRA)

山形大学・人文学部・教授

研究者番号：90133909

丸島 宏太 (MARUHATA HIROTO)

敬和学園大学・人文学部・教授

研究者番号：20202335

鈴木 直志 (SUZUKI TADASHI)

桐蔭横浜大学・法学部・教授

研究者番号：90301613

西願 広望 (SEIGAN KOB0)
青山学院女子短期大学・教養学科・准教授
研究者番号：00326521

屋敷 二郎 (YASHIKI JIRO)
一橋大学大学院・法学研究科・教授
研究者番号：30293145

古谷 大輔 (HURUYA DAISUKE)
大阪大学・世界言語研究センター・准教授
研究者番号：30335400